

## 重 要 記 録

### ★1 米子市暴力団排除条例施行（4月）

4月1日から米子市暴力団排除条例を施行し、「暴力団を利用しない」、「暴力団を恐れない」、「暴力団に金をださない」をスローガンに、行政、市民、事業者が一体となって暴力団を監視するとともに、米子市からの暴力団排除を推進していくことになる。

### ★2 中海・宍道湖・大山圏域市長会が発足。愛称は「だんだんサミット」に決定（4月）

旧中海市長会（米子市、境港市、松江市、安来市）に、新たに構成市に出雲市を、オブザーバーに鳥取県西部7町村を加えて、平成24年4月「中海・宍道湖・大山圏域市長会」が発足した。これを機に親しみの持てる愛称を公募したところ、応募多数の中から「だんだんサミット」に決定した。

### 3 西部後見サポートセンター「うえるかむ」の開設（4月）

判断能力の不十分な高齢者等が成年後見制度を利用することでその権利が擁護されるよう、県及び西部市町村と連携して平成24年4月10日に成年後見サポートセンターを県内で初めて開設し、常駐する社会福祉士等が権利擁護に関する相談業務等を開始した。

### ★4 図書館、美術館改修工事開始（5月）

建築以来30年以上が経過し老朽化していた図書館・美術館の設備等の改修や、バリアフリー化の推進並びに図書館の耐震化などを行うため、平成24年5月から図書館・美術館の改修工事にとりかかった。

### ★5 本庁舎及びクリーンセンターで使用する電気の調達について初めて入札を実施（5月）

今まで中国電力から随意契約により購入していた電気を、新電力（特定規模電気事業者＝PPS）も含めて条件付一般競争入札により購入することとし、本庁舎およびクリーンセンターにおいて入札を実施した。その結果、前年度の実績から試算すると合計で年間約550万円程度の減額が見込まれる。

### ★6 河内長野市と災害時相互応援協定を締結（5月）

5月28日に、大阪府河内長野市と災害時相互応援協定を締結した。この協定は、大災害発生時における生活必需品等の物資の提供、応急復旧に必要な職員の相互派遣等を定めたもので、遠隔地自治体との同様の協定は、徳島県阿南市に次いで2件目となった。

### ★7 米子市民自治基本条例の施行（6月）

「まちづくり」の基本的な考え方を定めた「米子市民自治基本条例」が平成24年6月に施行した。これに伴い、条例の内容についての周知を図るため、啓発パンフレットを全戸に配布するとともに、8月に「まちづくり講演会」を開催した。

- ★8 「米子市議会の議員の定数を定める条例」の定める定数30人を4人減の26人とする議案が議決される  
(6月)

6月18日に開催した特別委員会では、市民の皆さんと開催した「議員定数についての意見交換会」でのご意見を尊重しつつ、それまでの委員会審議の経過を踏まえて4人削減することに決し、6月定例会最終日の29日に委員長が条例改正の提案を行い、賛成多数により可決した。この新しい定数の26人は、次の一般選挙から適用されることになる。

- ★9 津波災害対策の実施(7~3月)

皆生温泉旅館組合と「津波発生時における一時避難所としての加盟旅館の使用に関する協定」を締結したほか、海拔表示板の設置、Jアラート(全国瞬時警報システム)の大津波警報による防災訓練の実施、津波ハザードマップの全戸配布を行うなど、津波に対する備えと意識の啓発を図った。

- 10 米子市消防団が全国消防操法大会出場(7月、10月)

7月に開催された鳥取県消防ポンプ操法大会において、成実分団がポンプ車操法の部で優勝、福生東分団が小型ポンプの部で優勝と、米子市消防団が両部門で優勝するという快挙を成し遂げた。さらに、福生東分団は、米子市消防団の歴史上初めてとなる全国大会(10月東京開催)に出場し、優良賞という見事な成績を収めた。

- ★11 メガソーラーの設置および運営に関する協定書調印(8月)

塩害や震災等により、長い間利用されてこなかった「崎津がいなタウン」と隣接する県および県住宅供給公社所有地の合計53.2ヘクタールにおいて、ソフトバンク(株)の子会社であるSBエナジー(株)と三井物産(株)とが出資し、大規模太陽光発電施設(メガソーラー)の設置を行うことが決まり、土地所有者と事業者で協定書の調印が行われた。計画では、一般家庭約12,000世帯分の消費電力に相当する42.9MWを発電し、完成時点で国内最大級の規模となる予定である。

- ★12 まんが王国建国記念イベントとして、「国際まんが博」「国際マンガサミット」ほか各種イベントが開催される  
(8~11月)

米子コンベンションセンター「ビッグシップ」において、11月7日から11日までの間、国内外の漫画家177人の参加による「第13回国際マンガサミット鳥取大会」が開催された。また、サミット期間中を含む11日間「ヨナゴワンダー！」が開催され、中心市街地において「第二次米子映画事変」など多数のポップカルチャーイベントが同時開催され、延べ128,000人の来場者で賑わった。

- 13 米子市教育振興基本計画の策定(10月)

学校教育の充実、生涯学習の推進、生涯スポーツの振興、伝統・文化の継承などの教育施策を体系的かつ効果的に実施していくために、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、平成33年までの基本構想と平成28年までの基本施策を定めた米子市教育振興基本計画を策定した。

- 14 ニッポン高度紙工業(NKK)株式会社操業開始(10月)

平成22年に二本木地区に誘致したニッポン高度紙工業(NKK)株式会社米子工場が7月6日に竣工し、10月29日に従業員44名で操業を開始した。

#### 15 公会堂改修工事開始（1月）

建設以来50年以上が経過し、老朽化していた公会堂の設備等の改修や、耐震化などを行うため、平成24年10月に実施設計を完成し、平成25年1月から改修工事にとりかかった。

#### 16 米子市営東山水泳場改修工事終了（1月）

屋内プール棟の屋根部分の老朽化に伴い、平成23年度から営業を停止していたが、平成25年1月13日に改修工事が終了し、市民への供用を開始した。

また、県教育委員会と水泳場の運営費等の経費負担について協議を進めていたが、東山水泳場については、水泳競技の競技力向上、県営皆生屋内プールについては、市民の健康増進を図る施設としてそれぞれ運営する方向性が確認され、機能低下が生じている箇所の施設改修後、それぞれの施設を交換することで合意した。

#### ★17 地域防災計画の見直し等の実施（3月）

東日本大震災における津波災害、東京電力福島第一原子力発電所事故等を教訓に、国の防災基本計画、原子力災害対策指針等を踏まえ、米子市地域防災計画の共通、風水害、津波災害等対策計画の見直しを行うとともに、原子力災害対策編の全面修正を行った。ほか、島根原子力発電所事故を想定した広域住民避難計画を策定した。

#### 18 米子コンベンションセンターの管理運営費に関する協定を締結（3月）

米子市と鳥取県が共同で管理している米子コンベンションセンターの管理運営費の見直しについての協議が整い、負担割合を現在の市1・県1から市1・県2へと変更する協定を締結した。（平成25年度から適用）

#### 19 債権管理条例を制定（3月）

自治体の債権は、様々な法律でその取扱いが規定されていることから、管理の方法が分かりにくく、管理事務を進めていくために多くの手間と時間が必要であった。この条例は、効率の良い債権の管理を行うことを目的に、事務の流れや具体的な手法などを明らかにするもので、今後は、この条例のルール等の徹底を通じて、債権の管理の適正化を図るものである。平成25年3月28日制定。4月1日施行。

#### 20 ふるさと納税の寄附金額が全国トップクラス

米子市の「ふるさと納税」の取り組みが、各種メディアに取り上げられたこともあり、平成24年度のふるさと納税寄附件数（人数）は7,201人（前年度の2.61倍）、寄附金額は89,058,764円（前年度の2.29倍）と全国トップクラスの実績となった。

#### ★・・・平成24年市政の主要ニュース